

蝦夷國全圖

仙臺 林平圖



からの 開国

特別展

2019

7/13^土 - 9/1^日

— 海がまもり、海がつないだ日本 —



神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

- 【開館時間】 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
【休館日】 毎週月曜日（ただし7月15日・海の日、8月12日・振替休日は開館）
※8月6日（火）は展示替えのため閉場（常設展示は観覧可能）
【観覧料】 一般900円（800円） 20歳未満・学生600円（500円） 65歳以上200円（150円）・高校生100円
※中学生以下・障害者手帳をお持ちの方は無料（ ）は20名以上の団体料金
※神奈川県立美術館・博物館の有料観覧券の半券提示により、割引制度あり
【交通】 みなとみらい線「馬車道駅」5番出口から徒歩1分 市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分
JR「桜木町駅」「関内駅」からいずれも徒歩8分
〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60 TEL：045-201-0926 FAX：045-201-7364

<http://ch.kanagawa-museum.jp/> / [twitter https://twitter.com/kanagawa_museum](https://twitter.com/kanagawa_museum)

【主催】神奈川県立歴史博物館 【後援】神奈川県新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞横浜支局、共同通信横浜支局、時事通信横浜支局、NHK横浜放送局、+vkc（テレビ神奈川）、ラジオ日本、FMヨコハマ、J:COM、【協力】船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

海の学び
ミュージアム
サポート

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT





魯西亜之図写 五様 蕉亭蔵 福山市歴史資料室蔵

北からの開国



大黒屋光太夫によるロシア来客「蝦夷人」大黒屋光太夫の絵巻

四方を海に囲まれた海国日本は、海が自然の要害となったことから、容易に異国船が接近できなかったこともあり、海外における戦争や紛争の影響を受けることなく「鎖国」政策による平和を享受することができました。しかし、18世紀に入ると、航海術や造船技術の発達により、異国船が日本近海に頻繁にその姿を現すようになります。海は異国と日本とを結ぶ路(みち)となったのです。そのような状況下において、日本と初の条約を締結したアメリカ東インド艦隊司令長官ペリーの来航より60年以上前の寛政3(1792)年、ロシアはラクスマンを派遣し江戸幕府へ開国通商を要求します。幕府は、ラクスマンの来航に端を発し海岸防禦(海防)態勢が不備であることに危機感を募らせます。その後、文化元(1804)年のレザノフ来航や文化5(1808)年のフェートン号事件などの対外的危機が相次いだことから、全国的な海防態勢の強化を図りました。総延長約430キロの海岸線を有する神奈川県域においても、三浦半島を中心に多くの台場が築かれました。

そこでこの展覧会では、自然の要害として機能していた海が異国と日本とをつなぐ路へと、その役割が変容したことを踏まえつつ、アメリカに先立ち北から開国を求めたロシアとの関係を浮き彫りにするとともに、「鎖国」を維持するために構築された海防態勢を紹介することで、開国史の新たな視点を提供します。

【関連行事】●連続講座(全5回)「近世後期における「海」」(事前申込制、申込多数の場合は抽選)

「海」が自然の要害から異国と日本を結ぶ路となった近世後期を対象に、専門の研究者が多角的に論じます。

7月20日(土)「近世後期における北方へのまなざし」嶋村 元宏(当館主任学芸員)

7月27日(土)「近世後期の漂流民・漂流記と蘭学者」松本 英治氏(開成高等学校教諭)

8月3日(土)「近世後期における洋式軍事技術の導入と展開—高島流砲術の創始から用兵・造砲・軍制の改革へ—」梶 輝行氏(横浜薬科大学教授)

8月24日(土)「近世後期の江戸湾防備と忍落・地域」澤村 怜薫氏(行田市郷土博物館学芸員)

8月31日(土)「近世後期の日露関係史とアイヌモシリー「蝦夷図」にみる認識と対抗—」吉村 智博氏(大阪人権博物館学芸員・国際日本文化研究センター客員准教授)

時間:14時~16時 会場:当館講堂 定員:各回70名(1回ごとのお申込みも受け付けますが、連続講座のため、全5回お申込みの方を優先します。) 受講料:無料(ただし、初回受講日の特別展観覧券が必要)

申込締切:6月26日(水)(必着)

●記念講演会「江戸時代後期日露関係の歴史的意義」(事前申込制、申込多数の場合は抽選)

18世紀末から19世紀初めの日本とロシアの接触・交渉・紛争が、江戸時代後期の日本の歴史にどのような意義をもったのか考察します。8月4日(日)14時~16時 講師:藤田 覚氏(東京大学名誉教授)

会場:当館講堂 定員:70名 受講料:無料(ただし、当日の特別展観覧券が必要) 申込締切:7月10日(水)(必着)

●教員向け講座「教科書だけでは学べない神奈川の歴史」(事前申込制、先着順)

教科書だけでは学ぶことが難しい史実について、授業の中で博物館資料を効果的に活用する学びづくりを考え、学習支援プログラムの作成を試みます。7月30日(火)10時~16時 講師:嶋村 元宏(当館主任学芸員)

会場:当館講堂 定員:35名 受講料:無料 申込締切:7月17日(水)(必着)

●子ども向け(申込不要)

「展示を見て海を学ぼう」日時:会期中の当館開館時間(9時30分~17時、入館は16時30分まで)

会場:コレクション展示室 定員:なし、出入自由 参加費:無料

「海の日イベント」7月15日(月・祝)11時~16時 定員:なし、出入自由 参加費:無料

●学芸員による展示解説(申込不要)

7月13日(土)~19日(金)、25日(木)、31日(水) 8月12日(月・祝)、18日(日)、24日(土)、30日(金)

申込方法:「往復はがき」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を明記のうえ、当館へお送り下さい。または、ホームページの「催し物案内」からお申し込み下さい。1通で複数名(最大4名まで)申し込まれる場合は全員分の氏名を明記してください。(1通で複数の催し物の申込はできません。催し物毎にお申込みください)

宛 先:神奈川県立歴史博物館 企画普及課
申込先:〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60
電話番号:045-201-0926

<http://ch.kanagawa-museum.jp/>

今後の特別展のご紹介① 2019

時宗二相上人七百年御遠忌記念
真教と時衆

10月5日(土)~11月10日(日)



今後の特別展のご紹介② 2020

掃部山銅像建立110年
井伊直弼と横浜
2月8日(土)~3月22日(日)



MUSEUM MISSION 2019
7/20~8/31 ミュージアム・ミッション2019

本屋ではスマートフォンアプリによる展示解説も実施します。